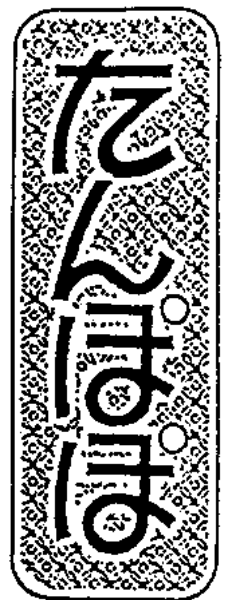
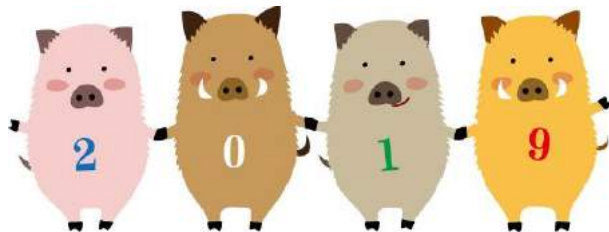


あけましておめでとうございませす



No. 378

H31年1月1日

— 発行 —

〒869-1217

熊本県菊池郡

大津町森 54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100

今年の抱負

今年は、1分1秒を大切に、少しでも皆様のお役に立てるよう努力していきま

す。
理事長 松田 健

新元号と共に、気持ちも新たにイノ(猪)ベーション(革新、変革)して、利用者さんの生活の質の向上について考える1年にしたいと思

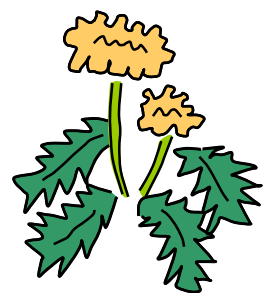
ます。
施設長 木下 昭二

みんなが幸せになれる職場、夢を語れる職場にしたい。

事務長 寺田 逸朗

健康第一、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にもすべてが満たされるようアクティブに頑張ります。

センター長 田邊 剛政



心地よい生活、心地よい支援を目指して潔くあること。

支援課長 平川 聖子

感謝の気持ちを忘れずみんなの笑顔が溢れる生活を求め続ける。

事業課長 岩田 幸児

学びて然る後に足らざるを知り、教えて然る後に困しむを知るくらい、学んで教えられるようになりたい。

業務課長 松本慎太郎



【生活課・1班】

丁寧に向き合います。

主任 本田 誠

共に笑い、共に楽しみ、共に頑張り、みんなの良い所100個見つけます!

リーダー 八木 良江

想いを盾に。知識や技術を武器に。先ずは、一步を踏み出すこと。

支援員 松村 雄一

安心できる環境をつくり、信頼できる関係をつくる。

支援員 後藤 志織

感謝を忘れず、自分らしく。

支援員 重岡 瑞希

今年は支援だけでなく、その他の面も、勤儉力行の精神で努める。

支援員 小城 崇

感謝の気持ちを忘れずに毎日過します。

支援員 中田 敬子

感謝の気持ちを忘れず、一つでも多くのことを学んで精進していきたい。

支援員 西本 綾子

のん気、こん気、元気で、今年も利用者さんと共に健康に気を付け、作業ミスを目指して頑張りたいと想います。

支援員 中村 照美

今年新しい元号が制定される年。心機一転して、これまで以上に楽しく、笑いのある年にしたいと思います。

支援員 園田 真紀

今年利用者の方々と共に健康に留意して楽しい一年にする。

支援員 原田 直美



【療育課・2班】
いつでも、どこでも、誰に對しても力になれる人になります。

リーダー 森田 康之

小さいことを慎重に、大きいことを大胆に行きたい。

支援員 久米 善久

利用者の方と向き合い、成長できる年にしたいです。

支援員 石原 佳奈

初心を忘れずrestartする。

支援員 下城 悠香

利用者の健康、笑顔を第一に。自己管理もしっかりと。

支援員 鶴 雅美

細かな事に気を配る。先を読んだ行動をする。運動するの三点を意識して過ごします。

支援員 上田 健太

利用者スタッフと共に笑顔になれる様に支援します。

支援員 玉永 咲希



今年 ゆっくりの急がずひと呼吸。

支援員 牛島真由美

猪突猛進!

支援員 中村 愛



機会を大事に、関わりを大切に。

支援員 金田 紘和

自分も相手も大切に、お互いが笑顔の年にする。

支援員 上田 奈実

人の気持ちを思いやり人のことを思える人になる。

支援員 山本 晴香

自分が出来ること、自分しか出来ないことを常に考え、実践していきます。

支援員 中里 貴永

今年自分から進んで動けるよう意識していきたいです。

支援員 今福 夏希

自閉症、行動障害の知識を身に付け、自分にできることを増やしていく。

支援員 相馬 敦

利用者の言葉、心の声に耳を傾ける気持ちを常に持ち一年を過ごしたい。

支援員 藤本身知子

【研修課・3班】

認め、誉め、尊敬する。そして焦らず1歩ずつ前へ。

リーダー 毛井 寛康

自分も人も支えられる私でありたい。

支援員 元杉 朋世



今年も楽しく仕事に取り
組みたいです。

支援員 江越 美保

支援のひとつひとつを大
切にします。

支援員 林原 あさ

正直に、真っ直ぐに、お
らかに、楽しく笑顔で、皆さ
んと共に。

看護師 今村 万喜



【地域課・4班】
体力を過信せず、予防に努
める。健康あつての利用者支
援。

統括主任 石丸 直美

感謝を忘れず、学び伝えて
いく。

リーダー 池田 彩織

自分の出来る事の幅を増
やし、支援に繋げていけるよ
うにします。

支援員 清田健士朗

利用者さんと諦めないで
色々なことに挑戦していき
たい。

支援員 田上 佳奈

利用者さんが笑顔になれ
るように考え行動したいと
思います。

支援員 芹川 久美

利用者の方達と様々なチ
ャレンジをしていきたい。

支援員 荒川百合子

安心・安全を軸にした支援。
支援員 古庄 優子



自己の体調管理に努め、無
事に1年目を過ごしたいと
思います。

支援員 高村 茂子

今年は、交通安全につとめ
利用者さんの支援にガンバ
ルぞー！

支援員 今村 修一

利用者さんの笑顔に対し
て、笑顔と感謝の気持ちで寄
り添い、看護師としての役割
で応えていきたい。

看護師 小崎 栄之



【地域課・5班】
世の情勢が変わっていく
ものも多いと思うが、変化に
応じながらも変わらないも
のを大事にしていきたい。

主任 佐藤 和也

福祉とは地域づくり。地域
で多様な方々が活躍する場
を創造していく。

リーダー 今池 一成

今年は班が変わって2年
目。昨年よりも利用者さんの
気持ちを理解できるように
なります。

支援員 宮岡 春菜

忙しいことは嬉しいこと。
1分1秒を大切にしたい。

支援員 原田みさき

やるべきことを一つひと
つシンプルで確実に行って
いくこと。

支援員 中村 圭助

【GH事業所・新(あらた)】
心と身体に優しい工夫を
たくさん見つけて、利用者さ
んと元気に！笑顔で！過ご
していきたいと思えます。

世話人 寺田ひろみ

世話人として2年目を迎えます。“亥年”前向きプラ
又思考で、明るく元気に頑張
って行こうと思っっています。

世話人 杉本 絹子

【GH事業所・一(はじめ)】

利用者さんのGHでの生
活がより充実したものにな
るための勉強をし、工夫、支
援を頑張っています。

世話人 藤本 優香

今年のもっと一日一日、利
用者さんがゆっくり楽しく
過ごせるように気付きを大
切に、学び、活かしていきた
い。

世話人 金丸 綾子

今年、気持ちに余裕を持
ち、利用者の方お一人お一人
を理解し、もっと近づき笑顔
で過ごして頂きたいと思っ
ています。

世話人 堀田貴美子

今年も利用者様と関わる
仕事ができることに感謝し
て、支え合っ一年にしたい。

夜間支援員 上野 純一

【GH事業所・ひだまり】

健康第一に利用者の皆さ
んが毎日楽しく生活出来ま
すように色々なことを考え
てやっていきたいです。

世話人 上田 祥子

清潔な環境を維持して毎
日を快適に暮らせるように
したい。

世話人 青木まり子

新しいひだまりで入居者
の皆様の健康に気を配り、元
気で何事もポジティブに頑
張ります。

夜間支援員 柳田 君子

【地域活動支援センター アンパ】

地域活動支援センター「ア
ンパ」の役割を果たせるよう
頑張ります。

支援員 黒澤加代子

思っていることを行動に
移す。

支援員 有馬 幸奈

利用者さんと共に、笑顔で
元気に過ごせるよう、地域と
の繋がりを大切に今年も頑
張ります。

支援員 中牟田真奈美

何事にも柔軟に対応出来
るよう、努める。

日々、元気に笑顔で…!!

支援員 梶田真知子

【相談支援事業所 たんぽぽ】

今年も年齢も節目の年？
自分のキャリアに応じた責
任のある仕事に励んでまい
ります。

私学特別相談員 浦田 裕之

学びの1年から実践の1
年へ。今よりもっと皆さんの
力になりたいです。

相談支援専門員 藤原みちよ

長年歳だからと甘えてき
たことにけりを付け、一から
のスタートをきるつもりで、
日々を丁寧に過ごし、落ち着
いた気持ちを持ち、元気な姿
で利用者さんと関わってい
きたい。

相談支援専門員 野口 公美



【熊本県北部発達障がい者
支援センター わっふる】

誉める・認める・尊敬する
事の大切さを沢山の方に伝
え、共感しより良い化学反応
を起こしたいと思います。

相談員 樫本 英也

謙虚に学び続けること、そ
れを行動に移すこと!!邁進
していきます。

相談員 木佐貫奈々

昨年は、沢山のサポートを
頂きました。お返しする様な
気持ちで今年も頑張ります。

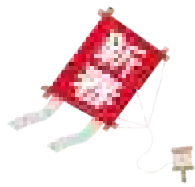
相談員 尾田まゆみ

自分に出来る事、わっふる
だから出来る事を取り組み
継続させていきたいと思っ
ます。

相談員 林田 光葉

発達障がい者の方々にと
って、地域にとって、意味の
ある事業となるよう、人と人
との繋がりを大切にしてが
んばります。

相談員 小平有樹子



【管理課】

利用者さんの貴重な意見
を献立に反映して、喜んでい
ただけるよう工夫していきたい
と思います。

栄養士 前田はる美

今年は「今」を大事にしま
す。「今」しかできないこと、
「今」だからできることを、
慌ただしい毎日の中で見逃
さないように過ごしていき
たいです。

事務員 酒井 望美

日々の積み重ねを大切に、
スキルアップできる1年に
したいです。

事務員 久保田祐加

新しい一年、いろんな事を
吸収して笑顔で過ごしてい
たいと思います。

事務員 上田 美樹

「三気の里」の四季折々の
風景を楽しみながら、しっか
りサポートしていきたいと思
います。

事務員 坂野 理恵



10年間の区切りの年、心残
りの無い仕事にしたい。更に
健康に十分気をつけて、園内
環境の美化に邁進したいと
思います。

介助員 小山 登

施設の環境の美化。花の咲
く施設を目指す。

介助員 吉田 浩二

徹底した安全運転と車両
管理。健康管理にも気を付け
る。

運転手 田中 和穂

与えられた仕事に責任を
持ち、笑顔で頑張ります。

清掃員 豊嶋 宏美

毎日、明るく笑顔で頑張り
ます。

清掃員 丸山 陽子





1 班：「ピザ作り、楽しかった」

今回の1班レクリエーションでは、阿蘇にある「なみの高原やすらぎ交流館」という場所でピザ作りの体験を行ってきました。ピザ作りが初めてということで、現地に何度も足を運び、入念な打ち合わせを行ってきました。いざ当日を迎え館内に入ると、皆さんしっかり係の方の話を聞き、生地を材料をボウルに入れ、手袋をして捏ねました。その後、生地が発酵するまでの20分間、館内でオセロをする人、本を見る人、運動場で縄跳びをする人もいました。ソーセージ・ピーマン・野菜などの食材がある中で、万遍なく入れずに一個ずつ取ろうとする方も居た為、スタッフが手伝うことで、満遍なく盛り付けを行うことが出来ました。盛り付け後、5~10分ほどで焼き上がり、1人1枚ずつ美味しそうに食べられていました。次回も、楽しい体験が出来るよう計画を練っていきたいです。

支援員 松村 雄一



2 班：「和菓子作りを通して」

2班レクリエーションにて、和菓子作り体験をしました。季節の果実「みかん」とサンリオキャラクター「ケロッピー」を作りました。あんこを丸める、広げる、包む、という作業ですが、スタッフも利用者の皆さんも悪戦苦闘。まず初めに、両手であんこを転がして丸めます。これが、皆さん中々上手くいかない様子で、ジェスチャーを交えながら説明しても、途中で握りつぶしてしまったりと、初めての和菓子作りに戸惑われていました。しかし、完成に近づくにつれて、あちらこちらから歓声が上がリ、手作りならではの個性あふれる作品が出来上がりました。和菓子作りを通して、相手に分かりやすく伝えることの難しさを学びました。同時に、色々なことにチャレンジすること達成感を得て、利用者の皆さんの可能性の幅を広げていきたいと思いました。

支援員 中村 愛



3 班：「自分の立場」

私事ですが、昨年まで父の介護をしてきました。父から学んだことが今の私の宝になっています。その経験を活かし、3班の最年長者のFさんと接しています。Fさんはとっても元気な方で、朝から顔を合わせ、「今日も元気ですか？」と伺うと、「元気！元気！のんき、こんき、げんき！」と大きな声で返してくれます。一方、色んな悩みや不安も持っておられ、沈んだ顔つきの時もあります。それを解消するには、やはりこちらは聞き手に回る事が一番、沢山話しを聞きます。すると笑いの絶えない一日を送る事ができます。

Fさんだけでなく、利用者の皆様の聞き手になると言うのが私の立場なのだと、父から学んだのだと思っています。これからも沢山、沢山話しの聞ける職員でありたいと思います。

支援員 藤本 身知子



4 班：「変化そして成長」

私が 利用者の方々と関わりをもたせて頂いて早くも3年が経とうとしています。まだまだ私自身の力不足から皆さんの手助けをうまく出来ず、考えさせられる事が多い毎日です。さて、昨年を振り返ると、4 班の皆さんにとって多くの変化がありました。新しいスタッフが入りました。生活の場が変わった方もいらっしゃいます。はじめは慣れないことも多く、戸惑う事も多くあったと思います。それでも新しい環境に慣れようとする 4 班の皆さんがいらっしゃいました。毎日笑顔で活動に取り組みされていました。変化の多い一年ではありましたが、今年も 4 班は元気で楽しい笑い声が聞こえてくる穏やかな 4 班でした。そんな 4 班が元気に楽しく過ごせるように、私自身も変化し続けなければと思います。

支援員 清田健士郎



5 班：「レクリエーション」

1月に入り、寒さもいよいよ本番を迎えました。昨年末、利用者さんの希望を取り入れて、浜線バイパス沿いにある「ステーキマニア」へ昼食外出に出かけました。皆さんメニューから自分の好きな物（多い方でステーキ 300g!?) を選ばれています。M さんはナイフとフォークを使ってヒレスステーキを美味しそうに食べられていました。K さんはハンバーグを焼き石に乗せてよく焼いて食べられていました。それぞれ好きなメニューを美味しそうに食べられていました。

また、「ステーキマニア」のスタッフの方にもとても親切にしてもらい、スムーズに食事を摂ることができました。今回の外出のように利用者の方々が楽しんで頂けるような事をこれからも計画していきたいと思います。

支援員 中村 圭助



「危機管理」

リスクマネジメントの前提は、「人はミスを犯すもの」と言われています。その前提を基に、①ミスの基となる原因を取り除く。②ミスを犯しても事故にならない仕組みを作る。③ミスを犯したら影響を最低限に抑える仕組みを作る。というマネジメントが必要とされています。また、事故は、過失が存在するものと不可抗力(偶然)によるものの両方を含めた概念を持っています。危機管理委員会では上記にあげたことを踏まえ、様々な事故の芽を摘むため、生活の中で上がってきた事故・ニアミス報告(ヒヤリハット)に対し、原因を特定し、再発防止策を立てるなどして、解決に向けた取り組みを行っています。安全はすべてに優先し、安全が確保されていないと安心はありません。利用者の方々に安心して安全な生活を提供できるよう、これからも委員会が核となって取り組んでいきたいと思ひます。

支援員 久米 善久



「活かす」

課長 平川 聖子

Kさんは、積極的に何かを話されるタイプではありませんが、話の内容や周囲の状況についてはよくわかっておられます。そんなKさんに衣類提供を考えていた時に、同班のスタッフから「Kさんは1週間全て着る服が違っているから、何か決まりがあるんですよね」といった声が聞こえてきました。着るものに無頓着な私には見えていませんでしたが、確かに毎日違うものを着ていて、上下の組み合わせも色々変えていて、しかも格好よくキマっている。しかしながら衣服はくたびれていて、せっかくのセンスが活かせない・・・これではいけないと、さっそく色、柄、形の違うシャツを4枚、ズボンを2本提供すると、Kさんはすぐにその服を含めてのオーダーションを始められました。次の衣服購入の機会に

は、Kさんに色を決めてもらって買ったり、Kさんに実際に選んでもらって買ったりと、少しずつKさんの好きな服がタンスの中に増えてくると、さらにKさんはその日の活動や行事に合わせて自らおしゃれにコーディネートして着ておられ、感心してしまいました。と同時に、これまでこんなに素敵なKさんの一面に気が付かず、衣類の十分な準備、提供が出来ていなかったことが本場に申し訳なく思えました。それから、Kさんが場面に合わせて服を選んで着ることが出来る力や、おしゃれをしようという意識を活かしていく支援を心掛けています。

Mさんは「自分のことは自分でする」という意識が高い方で、衣類整理や入浴準備、朝の衣服選びなど、人の手を借りずにやっておられます。ところがMさんは毎日同じような服を着ておられ、さらにはタンスの中のTシャツ、

肌着、ズボンやパジャマなどが入り乱れてしまうことがありました。一緒にタンスの整理をしていて気が付いたのは、Mさんがパジャマとして認識できるのは前開きのボタンが付いたシャツタイプのものだけ、肌着も色付きの物だとTシャツと認識して分類されていました。こちらも自分でするという意識に任せてしまい、気が付くのが遅れましたが、さっそく前開きのパジャマと白い肌着に買い替えをして、自分で間違いなく整理したり、準備したり出来るようにしました。「自分のことは自分でする」という意識を活かし、そして「自分で出来た」という自信が持てるような支援にしました。

どちらも日常的な支援の内容ですが、気づかぬうちに利用者さんの出来ることを活かせない環境を作ってしまったたり、適切な選択ができていない環境にしてしまったりしている例であると思いま

す。困っていることをうまく表現できない利用者さんたちですから、そのままの支援を続ければ、生活しづらくなりでなく、面白さもなくなります。結果として行動障がいになることも考えられます。

利用者さんたちの姿は日々変化しています。長く一緒に生活していても、いいところ、出来ること、出来るようになったことなど発見があります。今出来ていることで慢心せず、新たな力、芽生えに気付き、これからの生活に活かしていきたいと思えます。



【家族便り】

藤井 真由美

私どもの娘、麻衣が三気の里で暮らすようになって十七年が経ちました。

創立者の田中先生には直接お目にかかったことはありませんが、三気の里の開園当初の新聞の連載コラムで田中先生のことを知りました。

幼児期から自閉症の子を育てる難しさを痛感していたので、麻衣のことで行き詰った時の「駆け込み寺」のような気持ちでその切り抜きを大切に持っていました。

麻衣は思春期に入ると、パニックが激しくなり、命に関わる自傷行為や物を壊すことが多くなり施設入所を考へなければならぬ状態になりました。

学校から紹介された施設に麻衣を入所させましたが、その施設でもっと状態が悪くなり退所しました。

私たちは福岡県に住んでいますので、熊本県の三気の

里に来るには、高速道路を使い片道約三時間かかります。でも、麻衣を受け入れて療育してくれる施設は三気の里しかないと思い、すぐる思いで三気の里を訪ねました。

あれから十七年が経ちました。あの時、松田理事長や木下施設長の温かい救いの手がなければ、今の麻衣と私たちはいけません。

自閉症は本当に難しい障害だと思っています。

三気の里で自閉症の人たちが、生活しやすいように自分をコントロール出来る力や不適応行動の軽減が出来るような養育を実践して下さり、麻衣も随分落ち着いた日常を送れているようです。でも、帰宅した時は嬉しさのあまりか一睡もしない麻衣です。月に一度の家での時間を、夜は音楽を聞いて楽しんでいきます。私たちも、いつまでも麻衣を帰宅させ続けられるように、健康に気をつけなければと思っています。

私たち親子は、十七年間三

気の里で皆さまの温かい支援を受け、生きる望みをいただきました。いつも心から感謝しております。

(三気の会30周年記念誌より抜粋)

【もちつき】

支援員 小城 崇

今年も12月8日の土曜日に、一年の労をねぎらう目的のもと、餅つき大会を開催させて頂きました。前日から急に寒さが増してきたことで、利用者の皆さんの体調も心配されましたが、大きな事故もなく、無事に終えることができました。つきたてのお餅や豚汁、ぜんざい、保護者の方からの差し入れのミカンとお漬物等々、美味しそうに堪能されていました。

また、朝早くから保護者の方々のご協力や、地域の皆様ボランティアの皆様の協力ののおかげをもちまして、非常に盛り上がった大会となりました。皆様、大変ありがとうございました。



1月 行事予定

三気の里

地域活動支援センター アンパ

- 1日(月) 元旦
- 4日(金) 仕事始め
- 8日(火) 岡田 Dr.来診
- 10日(木) 利用者工賃支給日
- 12日(土) 家族会・スタッフ会議
- 15日(火) げんき隊 (4・5班)
- 17日(木) 2班レクリエーション
- 23日(水) 5班レクリエーション
- 24日(木) そばの日
- 26日(土) 帰宅バス・療育会議

毎週木曜地域販売日
【10、17、24、31日】



ヤマザキ製パン従業員組合熊本支部様
より寄付いただきました。



大同生命社会貢献の会様
より寄付いただきました。

ゆく年くる年



三気温泉!?後のジュースバイキング、
こたつで年越しそば。
ゆっくりと新年を迎えました。

【生け花】

西村 栄子様
※順不同

【餅つき】

大津町消防団第二分団森班様
イオン大津店様

【陣内食堂】

大津町更生保護女性会様

**ボランティア
ありがとうございました**

- 井口 忍様 中村 秀隆様
- 道上 進様 岡崎 範子様
- 財津 睦人様 櫻木 勇夫様
- 松永 広美様 田中 恭子様
- 田中 満子様 川島 様
- 大畠 照雄様 坂田多鶴子様
- イオン大津店様
- 三気の里家族会様
- ステイプ・クルーパー様
- ※順不同

寄付ありがとうございました

- 井口 忍様 財津 睦人様
- 大同生命社会貢献の会様
- ヤマザキ製パン従業員組合熊本支部様
- 【物品寄付】
- 上野 育夫様 魚谷 秀文様
- 松田 健 様 今池 隆則様
- 美光産業 様 ※順不同

後援会ありがとうございました